

「ごていねいに」が皮肉になるとき

加藤恵梨（愛知教育大学）

ekato8116@gmail.com

【要約】

本研究の目的は、「ごていねいに」が皮肉として解釈されるのはどのようなときなのかを明らかにすることである。『現代日本語書き言葉均衡コーパス』を用い、松井（2013）の「皮肉を理解する3つのプロセス」である「1 ことばのオモテが何であるか、2 ことばのウラ前提が何であるか、3 ことばのウラ結論が何であるか」にもとづいて、「ごていねい」が皮肉として解釈されるプロセスを記述した。

1. はじめに

国語辞典で「ていねい」という語をひくと、「ごていねいに（も）」という形で皮肉の気持ちを込めて言うことがあると記述されている。辞書にもあるように、「ごていねいに（も）」がいつでも皮肉として使われるのではなく、文字通りの良い意味で使われることもある。では、どのようなときに皮肉として使われ、どのようなときに文字通りの意味で使われるのであろうか。本研究では『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（以下、BCCWJ とする）を用い、「ごていねいに」が皮肉として解釈されるのはどのようなときなのかを明らかにすることを目指す。

2. 国語辞典の記述

国語辞典で「ていねい」がどのように記述されているかを確認する。『大辞林 第四版』と『新明解国語辞典 第八版』は次のように記述している。

ていねい（名・形動）

①注意深く念入りであること。細かい点にまで注意の行き届いていること。また、そのさま。

「何度も一に読む」

②動作や言葉遣いが、礼儀正しく、心がこもっている・こと（さま）。

「一な挨拶」

③何度も繰り返すこと。特に何度も忠告すること。

「一訓告せざるべからず／自由之理 正直」

④文法で、話し手が聞き手に対して直接に敬意を表現する言い方。

「「ご丁寧に（も）」などの形で、それほどまでに念を入れる必要がないのに、という意を皮肉やからかいの気持ちを込めて表すことがある。「ご一にも二重に包装してある」」

（『大辞林 第四版』、p. 1852）

ていねい

○相手の立場（気持）を考えて、真心のこもった応対をする様子だ。

「ごーなご挨拶痛み入ります／＼に頭を下げる」

㊦隅ずみまで注意が行き届き、落ち度の無いことを期待する様子だ。

「／＼に調べてみる／物を／＼に扱う」

運用

㊦は、「ご丁寧に（も）」などの形で、そこまで念を入れてしなくてもいいと思われるようなことをした人について、皮肉やからかいの気持ちを込めて言うことがある。例、「電話で済むのに、ご丁寧に（も）三時間もかけて家までやって来たよ」

（『新明解国語辞典 第八版』、p. 1054）

まず『大辞林 第四版』を見ると、4つの意味が書いてある。③の意味は現代では使われておらず、④は敬語の一つである丁寧語を指していると考えられるため、本研究では①と②の意味記述をもとに「ていねい」の意味を考える。また、一番下に『「ご丁寧に（も）」』などの形で、それほどまでに念を入れる必要がないのに、という意を皮肉やからかいの気持ちを込めて表すことがある」と記述されており、例として「ごていねいにも二重に包装してある」が挙げられている。この記述から、①の意味が皮肉やからかいとして使われると考えられる。しかし実例を見ると、①の意味だけではなく、②の意味も皮肉として用いられている。

次に『新明解国語辞典 第八版』を見ると、2つの意味が記述されており、㊦の意味は『大辞林 第四版』の①の意味に、㊦の意味は『大辞林 第四版』の②の意味に対応している。『新明解国語辞典 第八版』においても、運用として「㊦は、『ご丁寧に（も）』などの形で、そこまで念を入れてしなくてもいいと思われるようなことをした人について、皮肉やからかいの気持ちを込めて言うことがある」と記述されており、例として「電話で済むのに、ご丁寧に（も）三時間もかけて家までやって来たよ」が挙げられている。

二つの辞書の意味記述に大きな違いはなく、「ごていねいに（も）」の形で、皮肉やからかいの気持ちを込めて使われることがあるということも指摘されている。皮肉やからかいの意で使われることがある文の例として「ごていねいにも二重に包装してある」と「電話で済むのに、ご丁寧に（も）三時間もかけて家までやって来たよ」が挙げられているが、これらがどのような文脈で使われるときに皮肉の気持ちが込められていると解釈されるのだろうか。

3. 皮肉について

皮肉やアイロニーについては多くの優れた研究がある（内海 1997、岡本 2004、河上 2018 など）が、本研究では松井（2013:41）に従い、皮肉を「現実とは逆、あるいはそれに近いくらいかけ離れたことを言って、相手にそのギャップに気づかせ、自分の批判的な態度を間接的に示す」と定義する。松井（2013:46）は、典型的な皮肉では、ことばで述べられている内容は、現実にはならなかった話し手の期待や理想、願いなどを表すことが多く、それを伝えることによって、現実には起こったことに対しての話し手の批判的な態度を暗に示すことができると述べている。例えば、おもちゃを片づけずにおやつを食べ始めた子どもに「ちゃんと片づけられてえらいね」と言った母親の意図を考えると、「おもちゃを片付けてほしい」という自分の願いを子どもに思い出させると同時に、現実にはその期待が満たされずに残念な気持ちになったことを伝える意図があったと解釈できると記述している。

4. 皮肉を解釈するプロセス

松井（2013:137）は、話し手が伝えたかったこと（話し手の意図）を聞き手が理解するには、次のような3つの仮説が必要であると述べている。

- 1 ことばのオモテが何であるか
- 2 ことばのウラ前提が何であるか
- 3 ことばのウラ結論が何であるか

「ことばのオモテ」とは「話し手がことばを通して伝えようとした意味」（松井 2013:137）であり、「ことばのウラ」とは「ことばにしないで伝えようとした意味」（松井 2013:104）である。「ことばのウラ」にはことばのウラを読むために必要な推論のうち、前提となる「ウラ前提」と、ウラの結論である「ウラ結論」がある（松井 2013:125）。また、1 から 3 のすべての仮説を立てるためには、文脈が不可欠となる（松井 2013:137）。文脈とは、松井（2013:107）によると、「ことばの複数の解釈候補の中から、話し手が意図した意味を選択するための手がかりとなる情報」のことである。先行する会話は主要な文脈であるが、それだけではなく、どういふことを言いそうなのかといった会話の参加者に関する背景知識や、その他の一般知識、社会規範、文化的価値観なども文脈として用いられると述べている。

松井（2013）は、次の(1)のような状況を例として挙げ、皮肉を解釈するプロセスについて以下のように説明している。

- (1) IさんとJさんと子どもたちが、サンドイッチを持っていよいよピクニックに行ったとしよう。お弁当を広げて食べ始めるまでは良い天気だったのだが一転、黒雲が出てきて雨が降り出した。みんなであわててお弁当を片づけて車で雨宿りしているときに、予想外の展開にIさんがJさんにこう言ったとしよう。

Iさん「天気予報はよく当たるわね」

実際のところは、天気予報でその日は一日よく晴れると言われていたので、ピクニックを決行したのだった。つまり、Iさんの言っていることは実際とは合致しないということになる。そのことは、ピクニックの打ち合わせをしていたJさんにもよくわかっていた。前日の会話では「明日はよく晴れるって天気予報で言っていたから、ピクニックできるわね」と話していたからだ。それなのに午後雨が降ってピクニックはぶち壊しになってしまったのだから、天気予報は外れたのである。（松井 2013:135）

- (1)から、次の(2)のようなことばのウラ前提がJさんの頭の中に浮かんだとする。

- (2) ・IさんもJさんも天気予報を信じてピクニックを計画、実行した。
・一般的に、天気予報を信じて予定を立てることは多い。
・天気予報が当たれば、ピクニックはうまくいくはずだった。
・実際には天気予報が外れて、ピクニックはうまくいかなかった。
・Iさんは今「天気予報がよく当たる」とは思っていない。

（松井 2013:136）

Jさんは(2)のウラ前提をもとに、「自分が思ってもいないことをIさんが言ったのは、外れた天気予報へのうらめしさと、自分たちを含めて、一般的に天気予報が当たると信じている人たちの愚かさ、やるせなさを皮肉として伝えようとしたからだろう」という仮説を立て、「天気予報がよく当たると信じるのは愚かなことである」というウラ結論を導き出したと考えられる(松井 2013:136-137)。

上述のように、松井(2013)は会話における皮肉について分析しているが、本研究では松井(2013)の「皮肉を理解する3つのプロセス」にもとづき、書き言葉における「ごていねいに」の分析を行う。

5. 分析

5.1 BCCWJにおける「ごていねいに」の使用数

まず、BCCWJにおいて、「ごていねいに」がどれくらい使われているのかを調べた結果を表1に示す。

表1 BCCWJにおける「ごていねいに」の使用数

『大辞林 第四版』の意味記述	使用数 (うち皮肉の数)
①注意深く念入りであること。(以下略)	63 (55)
②動作や言葉遣いが、礼儀正しく、心がこもっている・こと(さま)。	33 (4)
合計	96 (59)

BCCWJでは「ごていねいに」は96件しか使われておらず、使用数が少ないことがわかる。それらが『大辞林 第四版』に記述されている2つの意味のうちの、どちらの意味で使われているのかを調べると、「①注意深く念入りであること。細かい点にまで注意の行き届いていること。また、そのさま」は63件で、そのうちの55件が皮肉として使われている。一方、「②動作や言葉遣いが、礼儀正しく、心がこもっている・こと(さま)」は33件で、そのうちの4件が皮肉として使われている。表1の結果から、BCCWJにおいては「ごていねいに」が①の意味のときに皮肉として使われることが多く、②の意味のときには文字通りの意味であることが多いということが分かる。

また、「ごていねいな」という表現についても調査した。その結果を示したのが次の表2である。

表2 BCCWJにおける「ごていねいな」の使用数

『大辞林 第四版』の意味記述	使用数 (うち皮肉の数)
①注意深く念入りであること。(以下略)	7 (7)
②動作や言葉遣いが、礼儀正しく、心がこもっている・こと(さま)。	19 (2)
合計	26 (9)

BCCWJでは「ごていねいな」は26件使われている。「ごていねいな」についても『大辞林 第四版』に記述されている意味で分類すると、①の意味は7件であるが、すべてが皮肉として用いられている。一方の②の意味は19件で、そのうち皮肉として使われているのは2件のみである。「ごていねいな」も「ごていねいに」と同様、①の意味のほうが皮肉として使われている割合が高い。さらに、①の意味においては「ごていねいなことに」が4件、「ごていねいなことだ」が1件というように、「ごていねいなこと」という表現が大部分をしめている。

5.2 「ごていねいに」の分析

5.2.1 意味①：皮肉ではない場合

まず、「ごていねいに」が①の意味で使われている例を見る。

- (3) その沖縄に、三線を作る無形文化財のおじいさんがいて、琉球大学の病院でガンを診断され、あと何日の命ですよと言われたときに、たまたまぼくが居合わせましてね。おじいさんが、じゃあ、テープレコーダを持ってきてくれと言うんです。で、何を録音したと思います？自分の葬式の段取りを全部吹き込んだの。皆さん、ようこそ、という挨拶から始まって、そんな悲しい顔をなさらずに、さあ家族の者はお酒をお出ししなさい、といった具合に、まあご丁寧にできているんです。 (0B4X_00069)

(3)は、がんで余命いくばくもないと診断された男性が、知り合いにテープレコーダを持ってこさせ、何をするかと思ったら、自分の葬式の段取りを全部吹き込んだということが書かれている。ここでは、そのテープレコーダに「皆さん、ようこそ、という挨拶から始まって、そんな悲しい顔をなさらずに、さあ家族の者はお酒をお出ししなさい」と吹き込まれていることを「ご丁寧にできている」と表現している。この「ご丁寧にできている」は、録音された内容の細部にまで男性の心遣いが行き届いていることに感心する気持ちを表しており、皮肉ではないと言える。

続いて次の(4)を見る。

- (4) (前略) 落とした瞬間手とにらめっことゆうか手が近すぎて目が寄り目にとかどーでもよくってでかいトングみたいのがご丁寧にあったもんでそれですばやくズサーっと (後略)

(0Y14_31128)

(4)は、外出先で便器の中に携帯電話を落として困っていたとき、近くに火ばさみが「ご丁寧にあったもんでそれですばやくズサーっと」とったと書かれている。なお、火ばさみは文中では「でかいトングみたいの」と表現されている。ここでの「ご丁寧にあった」は、あると思っていた火ばさみがおいてあったというように、細かい点にまで注意の行き届いていることへの感謝の気持ちを表していると考えられる。よって、(4)の表現も皮肉とは考えられない。

5.2.2 意味①：皮肉の場合

「ごていねいに」の①の意味が皮肉で使われている例を見る。

- (5) 「あたり前や、これだけあらゆる術をうって敗けるはずがない、医事裁判というものは、勝つてもともとで、敗けたら、これほど阿呆らしいものはあらへん、金と時間をかけてご丁寧に敗けるわけやから、今後は二度と、こんな阿呆らしいことに金を費わんで貰いたいですな、わしは捨て銭を使うのが何より嫌いでしてな、あっはっはっはっ」 (PB52_00159)

(5)の話し手は、医療裁判で被告である親族がまけたとしたら、「これほど阿呆らしいものはあらへん、金と時間をかけてご丁寧に敗けるわけやから」と言っている。この表現から、「ごていねいに」を用い、

金と時間をかけてまけるのは注意が行き届いていると皮肉を言うことで、医療裁判にまけることを批判していると考えられる。よって、(5)の「ごていねいに」は皮肉として使われている。

上の(5)は先行する会話の内容や前後の文で使われている表現から、「ごていねいに」が皮肉として使われていると容易に判断できるが、次の(6)のように、先行する会話以外の文脈も考慮して解釈する必要があるものもある。

- (6) 奥山線は、井伊谷駅から北ではじめ神宮寺川の右岸を、ついで左岸を、そしてまた右岸を、終点の奥山駅めざしてさかのぼってきていたのだが、どういうわけか、あと百メートルちょっとで終点、という最後の最後に、わざわざごていねいにもう一度川を渡っていた。

(LBa2_00013)

(6)は、列車があと百メートルちょっと走れば終点につくという最後の最後に、「わざわざごていねいにもう一度川を渡っていた」とある。この表現についての「ことばのオモテ」「ことばのウラ前提」「ことばのウラ結論」は次のように考えることができる。

1 ことばのオモテ

- ・あと百メートルちょっとで終点の奥山駅につくという最後の最後に、念入りなことにもう一度川を渡った。

2 ことばのウラ前提

- ・列車は終点をめざし、川の岸をさかのぼってきていた。
- ・書き手はあと百メートルちょっとで終点の奥山駅につくと思っていたが、最後の最後にもう一度川を渡った。
- ・一般的に、乗客ははやく目的地に着きたいと思っている。

3 ことばのウラ結論

- ・もう少しで終点に着くというところで、時間と労力をかけて、もう一度川を渡る必要はないと思っている。

上の2のようなウラ前提をもとに、「書き手は、あと百メートルちょっとで終点の奥山駅につくという最後の最後に、もう一度川を渡るのは無意味であるという思いを皮肉として伝えようとした」という仮説が立てられ、「もう少しで終点に着くというところで、時間と労力をかけて、もう一度川を渡る必要はないと思っている」というウラ結論を導き出すことができる。よって、(6)の「ごていねいに」は必要がないのに、注意深く念入りであることを批判する皮肉表現であると言える。

さらに、次の(7)を見る。

- (7) のんびりしている場合ではなかった。こんどはブタに食べさせる番である。かなり余分に作ったはずの夕食だったが、久々の労働に疲れたせいか、みんなはよく食べた。それでもいくらかは残ったが、二十頭のブタたちにはとても足りなかった。フライデーは、わざとらしい溜息について、もう一度おなじ献立で、おなじ量の夕食を作った。ご丁寧に、味付けまでおなじだ。

(LBr9_00254)

(7)は、友人（フライデー）がブタの餌を作る際、自分たちが食べた夕食と献立や量だけではなく、味付けまで同じにしたことを「ご丁寧に、味付けまでおなじだ」と表現している。この表現についての「ことばのオモテ」「ことばのウラ前提」「ことばのウラ結論」は次のように考えることができる。

1 ことばのオモテ

- ・友人はブタの餌を作る際、自分たちが食べた夕食と献立や量を同じにただけではなく、味付けにまで気を配って同じものを作った。

2 ことばのウラ前提

- ・余った夕食をブタに食べさせようと思っていた。
- ・夕食を余分に作ってはいたが、みんながよく食べたため、ブタたちには足りなかった。
- ・一般的に、ブタの餌を作る際に、味付けにまで気を配らない。
- ・友人はブタの餌を作るのに、味付けにまで気を配った。

3 ことばのウラ結論

- ・ブタの餌を作るのに、味付けにまで気を配る必要はないと思っている。

上の2をもとに、「書き手は、ブタの餌を作るのに、細かい点にまで注意の行き届いている必要はないという思いを伝えようとした」という仮説が立てられ、「ブタの餌を作るのに、味付けにまで気を配る必要はないと思っている」というウラ結論を導き出すことができる。よって(7)の「ごていねいに」は、必要がないのに、注意深く念入りであることへの批判的な態度を表す皮肉表現であると言える。

5.2.3 意味②：皮肉ではない場合

次に、「ごていねいに」の②の意味の例を見る。

- (8) 洋子お嬢様のお輿入れに際しまして、大上様から『使用人のすべてが新しくては寂しがるかもしれない。よければ来ていただけませんか』とご丁寧に誘って頂きましてな。 (LBr9_00043)

(8)の「ごていねいに」は、雇い主が娘の御輿入れに際し、一緒に嫁ぎ先に行ってくれないかと礼を尽くして誘ってくれたことへの感謝の気持ちを表している。よって、皮肉ではない。

5.2.4 意味②：皮肉の場合

最後に、②の意味が皮肉で使われている例を見る。

- (9) (前略) ラジオ・テレビ村には、(中略) 幽霊もよく出現するが妖怪ならぬ泥棒も出て、ピアノ一台、みなさんお揃いの前で堂々と運び出し、ごていねいに、御苦勞様なんて手伝ったのもいる。 (LBkn_00027)

(9)は、ラジオ・テレビ村には、よく泥棒が出て、「ピアノ一台、みなさんお揃いの前で堂々と運び出し、ごていねいに、御苦勞様なんて手伝ったのもいる」とある。この文についての「ことばのオモテ」「ことばのウラ前提」「ことばのウラ結論」は次のように考えることができる。

1 ことばのオモテ

- ・ピアノを運び出している人を見て、礼儀正しくご苦勞様と言って運び出すのを手伝った者もいた。

2 ことばのウラ前提

- ・ラジオ・テレビ村に泥棒が出て、みんな困っている。
- ・一般的に、泥棒が盗んだ荷物を運び出すのを手伝う人はいない。
- ・泥棒が盗んだ荷物を運び出すのを手伝った人がいた。

3 ことばのウラ結論

- ・泥棒が盗んだ荷物を運び出すのを、親切ぶって手伝うとは愚かだと思っている。

上の2のウラ前提をもとに、「書き手は、礼儀正しくご苦勞様と言って泥棒が盗品を運び出すのを手伝うのは愚かだという思いを皮肉として伝えようとした」という仮説が立てられ、「泥棒が盗んだ荷物を運び出すのを、親切ぶって手伝うとは愚かだと思っている」というウラ結論が導き出される。よってここでの「ごていねいに」は礼儀正しくしたり、心をこめて何かをしたりする必要がない相手に、そのような行為・態度をすることを批判する皮肉であると考えられる。

続いて、次の(10)を見る。

- (10) (前略) おじいちゃん私ね手術するから何にも食べられないよでも、これは美味しいからーそう言っ
て自分が買ってきたソーセージをご丁寧にも食べさせてくれました(――;)でも、それをナースに見られ・・・ (OY11_00663)

(10)は、入院し、手術を控えている女性が、手術するから何も食べられないと知り合いの老人に言ったにもかかわらず、老人は「自分が買ってきたソーセージをご丁寧にも食べさせてくれました」とある。この表現は次のように考えることができる。

1 ことばのオモテ

- ・おじいちゃんはソーセージをわざわざ食べさせてくれた。

2 ことばのウラ前提

- ・病室のベッドに寝ており、体を自由に動かせない状態である。
- ・明日手術をするため、何も食べてはならないと言われている。そのことをおじいちゃんも知っている。
- ・おじいちゃんはソーセージを買ってきて、食べさせてくれた。

3 ことばのウラ結論

- ・無理やり食べさせられたことに対するとまどいや驚きを感じている。

上の2のウラ前提をもとに、「書き手は、老人の心のこもった言動がありがた迷惑であるという思いを皮肉として伝えようとした」という仮説が立てられ、「無理やり食べさせられたことに対するとまどいや驚きを感じている」というウラ結論が導き出される。よってここでの「ごていねいにも」は、する必要がない行為を心をこめてすることへの批判を表す皮肉であると考えられる。

5.3 「ごていねいな」の分析

5.3.1 意味①：皮肉の場合

次に「ごていねいな」について見る。表2で示したように、BCCWJでは「ごていねいな」が①の意味で使われているものはすべて皮肉表現であったため、皮肉表現について見る。

- (11) 汗がシャツを濡らし、服が筋肉にぴったりと張りつく。「おまえはボスを怒らせた」「ボス？誰だい、そりゃ？」「黄ボスさ」（あの野郎っ！）復讐は迅速に。ご丁寧なことだ。歯噛みしながら、レイは目まぐるしく思考を回転させた。（LBj9_00019）

(11)は、怒らせた相手（黄ボス）の子分がレイの家にやってきて、レイに拳銃をつきつけているという場面である。「ご丁寧なことだ」はレイが心の中で思ったことであり、子分がボスの復讐を迅速に行うことに対する気持ちを表している。前後の文脈から、ここでの「ごていねいな」は、念入りの仕事ぶりでレイへの復讐を迅速に行うことへの驚きといらだちを表していると考えられる。よって、(11)の「ごていねいな」は皮肉であると言える。

続いて次の(12)を見る。

- (12) だから、もとの丹生から誤られて舟生と書かれ、しかも舟運に関連ありとされて現在のように船生となったとする、まったくごていねいな変遷を考慮しなければならない。（LBt2_00056）

(12)は、ある地名が現在のようになるまでに「まったくごていねいな変遷を考慮しなければならない」とある。この表現についての「ことばのオモテ」「ことばのウラ前提」「ことばのウラ結論」は次のように考えることができる。

1 ことばのオモテ

- ・ある地名が現在のような名前になるまでに、細かな変遷を考慮する必要がある。

2 ことばのウラ前提

- ・現在の地名は人々の誤解により、もともとの地名から何度も名前が変更された結果、生じた。
- ・この地はもともと鉾山地帯であり、舟運とは関係ないのに、「船生」となった。

3 ことばのウラ結論

- ・現在の地名が人々のその場しのぎの発想によって生じた誤解により、何度か変化した後に生じたことに対する驚きを感じている。

上の2のウラ前提をもとに、「書き手は、ある地名が現在のような名前になるまでに、細かな変遷を考慮する必要があることへの驚きを皮肉として伝えようとした」という仮説が立てられ、「現在の地名が人々のその場しのぎの発想によって生じた誤解により、何度か変化した後に生じたことに対する驚きを感じている」というウラ結論が導き出される。よって、ここでの「ごていねいな」は、人々の緻密ではない、その場しのぎの発想を批判する皮肉表現である。

5.3.2 意味②：皮肉ではない場合

続いて、意味②の皮肉ではない例を見る。

- (13) 「このたびは、娘からの相談に対してご丁寧な返事を頂きました。父親として感謝いたしております。(後略)」 (PB39_00006)

(13)の「ご丁寧な返事」は、娘からの相談に真摯にこたえている返事のことを指している。よって、(13)の「ごていねいな」は皮肉ではない。

5.3.3 意味②：皮肉で使われている場合

意味②の皮肉の例を見る。

- (14) 「近寄らないで。後悔することになります」
「後悔？ なんの後悔だ」
「あなたの顔色はよくありません。心臓が悪いのではないの？」
「あいにく、この年まで病気をしたことがない。ご丁寧な心配は無用だ」
「無用の心配ではありません。感情を激昂させると、とり返しのつかぬことに…」
(LBb9_00013)

(14)は、女性が高齢の男性に「心臓が悪いのではないの？」と尋ねると、男性が「あいにく、この年まで病気をしたことがない。ご丁寧な心配は無用だ」と答えている。この表現についての「ことばのオモテ」「ことばのウラ前提」「ことばのウラ結論」は次のように考えることができる。

1 ことばのオモテ

- ・自分に対する心のこもった心配は無用だ。

2 ことばのウラ前提

- ・男性は女性に近づきつつある。
- ・女性は男性に近寄らないでほしいと思っており、どうにかして阻止しようとしている。
- ・女性は男性に「あなたの顔色はよくありません。心臓が悪いのではないの？」と尋ねた。
- ・男性は今まで病気をしたことはなく、健康であると思っている。

3 ことばのウラ結論

- ・この場にふさわしくない、自分を心配するような言葉をかけるのはわざとらしく、無用だと思っている。

上の2のウラ前提をもとに、「話し手は、この場で自分を心配するような言葉をかける彼女の愚かさを皮肉として伝えようとした」という仮説が立てられ、「この場にふさわしくない、自分を心配するような言葉をかけるのはわざとらしく、無用だと思っている」というウラ結論を導き出すことができる。以上から、ここでの「ごていねいな」は、女性がわざとらしく男性を心配することを批判する皮肉表現であると言える。

6. まとめと今後の課題

本研究では、松井（2013）の「皮肉を理解する 3 つのプロセス」である「1 ことばのオモテが何であるか、2 ことばのウラ前提が何であるか、3 ことばのウラ結論が何であるか」にもとづき、「ごていねいに」が皮肉として解釈されるプロセスを記述した。

今後は、「ごていねいに」が文字通りの意味として使われている場合であっても、「ていねいに」に「ご」がついたものと同じ意味であるとは考えられないものもあるため、その点について分析していきたいと考える。

参考文献

- 内海彰（1997）「アイロニーとは何か？—アイロニーの暗黙的提示理論—」『認知科学』4 巻 4 号, pp.99-112.
- 岡本真一郎（2004）「アイロニーの実験的研究の展望—理論修正の試みを含めて—」『心理学評論』47 巻 4 号, pp.395-420.
- 河上誓作（2018）『アイロニーの言語学』鳳書房
- 松井智子（2013）『子どものうそ、大人の皮肉—ことばのオモテとウラがわかるには』岩波書店
- 松村明（編）（2019）『大辞林 第四版』三省堂
- 山田忠雄・倉持保男・上野善道・山田明雄・井島正博・笹原宏之（編）（2020）『新明解国語辞典 第八版』三省堂

使用したアプリケーション

コーパス検索アプリケーション『中納言』（<http://chunagon.ninjal.ac.jp/>）